

二大鉄道会社

カナダの鉄道網は、大小合わせて四十数社から成り立っているが、貨物輸送の九割は二大鉄道—カナダ国鉄とカナダ太平洋鉄道が占めている。

カナディアン・ナショナル（CN）は

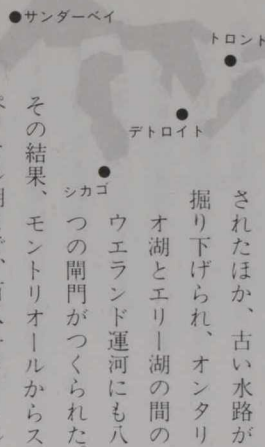
五大湖のひとつ

オンタリオ湖に発し、米加国境をへてカナダ大西洋岸のセント・ローレンス湾に注ぐセント・ローレンス川は、カナダの「母なる大河」である。

原住民のインディアンは、この大河を大切な水路としていたし、ヨーロッパから来た探検家や毛皮商人は、この大河をさかのぼり、オタワ川、サゲネー川などの数々の支流、五大湖、そして五大湖から四方、八方に流れる河川に沿って、北米大陸の奥地へ、奥地へと入っていった。カナダの夜明けは、まさにセント・ローレンス川に始まったのである。

セント・ローレンス川およびその広大な流域は、やがてアメリカ大陸の穀物や材木をヨーロッパへ送り、イギリスから農機具など工業製品を内陸部に輸送する要路となり、それとともに沿岸のモントリオールやトロントは大きな発展をとげた。そして一九五四年から五年がかりで行

重要な輸送幹線 セント・ローレンス水路



従業員八万人、年間売上高約四十三億ドル。鉄道、海運、トラック、航空など九つの事業部門をもつが、中心は鉄道である。カナダ国鉄（CNR）は、営業キロ数五万六千キロと、カナダで一番長い鉄道網をもっている。平原諸州でとれる小麦や、アルバータ州などカナダ西部の石炭

われた史上最大の水路開削工事により、

モントリオールからエリー湖までの約六百キロの間に、米加両国の協力で七つの閘門が新設

されたほか、古い水路が掘り下げられ、オンタリオ湖とエリー湖の間のウエラント運河にも八

つの閘門がつくられた。

その結果、モントリオールからス

ペリオール湖まで、百八十メートルの落差を溯行することができるようになった。また長さ二百二十三メートル

積載能力二万七千トンの外航船が航行可能となり、セント・ローレンス水路で輸送

される貨物の量は一挙に五倍に増えた。

現在、凍結によって航行不能となる十二月中旬から三月下旬までを除いて、年間五千隻の船がこの水路を往き来し、モントリオール—オンタリオ湖間だけで五

六千トンの貨物を輸送している。貨物の大半は、穀物、鉄鉱石などのバラ荷。

セント・ローレンス水路は、また、急流を利用した発電によって、カナダと米

国にそれぞれ八十四万キロワットの電力を供給している。

を、主にバンクーバー（日本などアジア向け）やチャールズ港（欧州向け）まで延々数千キロも運んでいる。現在のところ、最も混雑するのがエドモントン—バンクーバー間で、日本や環太平洋の国々に対するバルク貨物の輸出は、ほとんどこの路線で運ばれている。

カナディアン・パシフィック（C.P.）

は、従業員十三万人、年間売上高百億ドル、カナダで一番大きい会社である。C.N.と同じ総合輸送企業だが、輸送関係のほかに鉱山、林産などの子会社も持つ文字通りのコングロマリット（複合企業）。

その鉄道部門、カナダ太平洋鉄道（C.P.R.）は、C.N.R.の鉄道網とほぼ平行してその南側を、米加国境に沿って網の目のように支線、幹線を走らせている。穀倉地帯の小麦はバンクーバー（アジア向け）と

サンダーベイ（欧州向け）へ、アルバータ州西南部の石炭もバンクーバーの埠頭ロ

パーツバンクへ、そのほかC.P.の主要貨物であるカリ、鉱石、石化製品、木材などがそれぞれ専用の列車で、西へ東へ運ばれていく。ケベック州でとれるアスベ

ストは、カナダ東端に近いセント・ジョン港のターミナルまでC.P.の貨車で運ばれると、待ち受けていた日本の船に能率よく積み込まれる。

C.N.、C.P.の二大鉄道のほか、木材輸送のB.C.州鉄道、鉱石輸送のグレート・スレーブ・レーク鉄道（C.N.系）など、

小さな鉄道会社がたくさんあるが、それらはいずれも、地方の特産資源を単品輸送する支線の性格が強い。

輸送能力増強計画

一九七〇年代に入ってから、バルク貨物、とくに穀物と石炭の輸送がふえつつある状況の中で、西部の鉄道輸送能力を全面的に増強する必要が出てきた。そこで一九七八年、カナダ政府とC.N.、C.P.、北アルバータ鉄道は、向こう十年間にわたる平原地方鉄道改善計画の実施に入った。

計画の前半ではとくに穀物輸送網の能力アップが目指され、たとえば四年度目の

八一年には二億四千万ドル、翌八二年に



日本向けのコンテナが次々と荷積みされるバンクーバー港。

はさらに二億五千五百万ドルの政府資金投入が決定されている。これによって、各鉄道会社では、路盤の改良、カーブのまくら木のコンクリート化、レールの重量化、長い通過用側線の建設、複線化などに取り組んでいる。C.N.でも、それと合わせて、西部地域